



小学校 英語活動ニュース

2015年8月5日 英語デイキャンプを開催しました。



大阪狭山市立「市民ふれあいの里」において、4年生から6年生までの日本人児童39人、米国人児童2人、ネイティブ成人4人、日本人学生6人、スタッフ10人というたくさんの参加者で「英語デイキャンプ」を実施しました。例年通り、「リスの国パスポート」を持って8国の国旗を掲げたブース訪問です。子どもたちは名前や年齢、好きな食べ物などいろいろな質問に上手に英語で答えていました。午前中のメインは「サイコロキューブ作り」でした。あらかじめスタッフが準備した牛乳パックにシールを貼って三つのサイコロをつないで完成です。



昼は、英語を使って材料の仕入れをし、カレーの調理と飯ごうの炊き方を学びました。午後からは楽しい「宝探しゲーム」。園内の地図を頼りに封筒に入った指令書に従い班で移動して、アルファベットを見つけに行きました。5つの文字をつなげて単語を作り、その意味も正解すれば商品を得ることができるのです。英語の単語は日ごろ見受ける言葉でした。



景品は「スピンドライヤー」でした。解散式の集合時刻まで、広場で全員仲良く楽しそうに飛ばしていました。

英語活動研修会の開催

昨年は、大阪狭山市教育研究会英語活動部会と協力して、小学校の先生方を対象とした研修会を夏季長期休業日中に2回実施しました。

ひとつは7月28日に「低・中学年にも使えるアクティブティを知ろう」を主題とし、内容は「外国語活動の基本のルール、楽しいゲームの仕方、クラスルームイングリッシュの練習、二人でアルファベットを作ろう」など基本的な活動を中心に研修を行いました。



8月25日には「Hi, friends! の実践的な活用方法」をテーマに、内容は「アイスブレイクゲーム」を始め、簡単でアレンジのきく「じゃんけんゲーム」、「簡単なチャンツの作り方。リズムに合わせて口頭練習を楽しくする方法、夢をかなえる時間割（発表：Hi, friends!1 Lesson8）づくり」など内容がたっぷりの研修会でした。

今後も大阪狭山市内の先生方と協力しながら、子どもたちが学んだことを使ってみたくなるような必然性のある英語活動を求めて研修を実施していく予定です。

『小学校の新たな外国語教育における補助教材について』（文部科学省）より

平成27年4月から約1,600校ある教育課程特例校、先進的な英語教育を実施する小学校、各教育委員会などに新教材が配布され、「アルファベット文字の認識」「日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴」「語順の違いなど文構造への気づき」を目指した授業が展開されている。この教材は「Hi, friends! Plus」です。

「Hi, friends! Plus」のワークシートや活動事例が文部科学省のホームページの「小学校の新たな外国語教育における補助教材の作成について」に掲載されている。そのひとつを紹介すると、

デジタル教材アルファベット「ねらい：アルファベットの文字の認識を深める」の活動事例のところに「書き順は参考に示したものであり、児童が書きやすいように書かせましょう」とある。「児童が書きやすいように」という言葉が他の場所にもよく出てくる。

このデジタル教材（DVD）は、都道府県・市区町村委員会へ平成27年4月に配布されている。この教材を指定校以外で扱うときに文部科学省は、「教科化に向けた留意点」の中で、○補助教材の性質として「本教材はHi, friends! を『補助』するものであること。」「1単位時間の授業を『補助』するものであること。」「研究開発校のカリキュラムを『補助』するものであること。」に留意してくださいとし、留意する内容を記載している。

また現行の学習指導要領に沿って外国語活動を実施している学校が補助教材として活用する場合は「学習指導要領に記載されている外国語活動の目標に向けて十分指導が行われていることを前提とし、資料に記載された補助教材のポイントや上記の補助教材の性質を十分に踏まえた上での活用をお願いします。なおデジタル教材は配布いたしません。デジタル教材の情報については所管の教育委員会にお問い合わせください」とある。

文部科学省が変えようとしている小・中・高等学校の英語教育を研究し、どのように変わっていくかを知り、その準備を始めることが大切です。今、一番大切なことはこの基盤である小学校の文字指導デジタル教材「Hi, friends! Plus」を知ることです。この文字指導を先進的研究学校でどのように実践されているかを知るために各地で実施される発表会へ出かけて行って準備を始めましょう。研修会の情報は、「SENSEI PORTAL」（教員向けイベント情報）に登録すると得られます。